

株主のみなさまへ

グループ事業のご報告

第119期年次決算 2009.4.1～2010.3.31

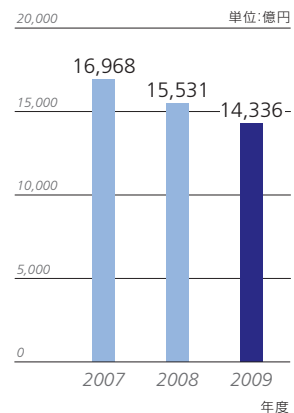
証券コード：3407



決算ハイライト HIGHLIGHTS

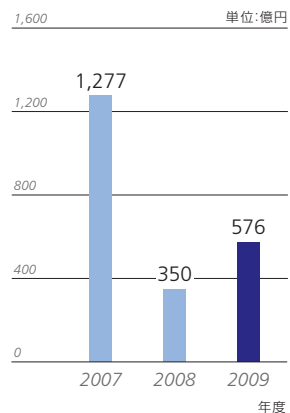
売上高

1兆4,336億円
前期比 1,195億円減



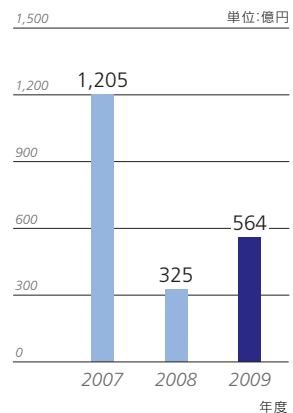
営業利益

576億円
前期比 227億円増



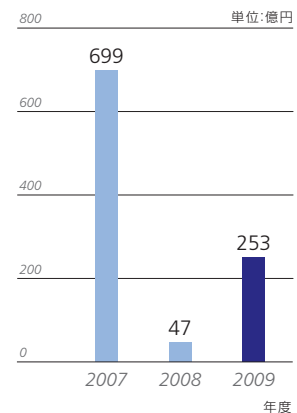
経常利益

564億円
前期比 239億円増



当期純利益

253億円
前期比 205億円増



ケミカル事業の業績回復により、増益に

当社グループの当期における連結業績は、売上高は、ケミカル事業において上半期に原燃料価格低下に伴う製品価格下落の影響を受けたことや、住宅事業において戸建住宅の引渡戸数が減少したことなどから、1兆4,336億円で前期比1,195億円(7.7%)の減収となりました。しかしながら、営業利益は、海外での製品需要の回復により交易条件が改善したケミカル事業の業績が大幅に改善したことや、コストダウンに努めた

住宅事業が業績を伸ばしたことから、576億円で前期比227億円(64.8%)の増益となり、経常利益は564億円で前期比239億円(73.4%)の増益となりました。また、医薬・医療事業において、米国CoTherix社との仲裁の最終裁定が下されたことに伴う特別利益を計上したことなどから、当期純利益は253億円で前期比205億円(433.0%)の増益となりました。

株主のみなさまへ

ごあいさつ

“株主のみなさまへ”をお届けするにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

当期における世界経済は、一昨年秋に発生した世界的な経済危機に対する各国の経済対策の効果により、中国を中心とした新興国全般において景気が回復基調にありました。一方で、日本経済は、アジア向けの輸出が増加したことなどにより、企業収益は改善したものの、円高の進行や国内の設備投資の抑制、個人消費の低迷などが依然として継続し、景気回復に遅れが見られました。

このような状況の中で、当社グループの事業を取り巻く環境は、不安定な原燃料価格の動向や円高、国内向け製品の需要回復の遅れなどの影響を受け厳しい状況で推移し、当社グループの業績は減収を余儀なくされたものの、海外における好調な需要を背景に輸出関連事業が伸長したことやコストダウンにより、増益を達成いたしました。

この業績を踏まえ、当期末の配当は1株につき5円とさせて

いただきます。これにより当期の年間配当額は、中間配当と合わせて1株当たり10円となります。

2010年度は、これまで実行してまいりました中期経営計画「Growth Action - 2010」の最終年度となりますが、昨年6月に見直しを実施した戦略を着実に実行し目標の達成を図るとともに、次期の中期経営計画の策定を進めてまいります。

当社グループでは、本年4月1日より、新しい経営体制がスタートいたしました。急速に変化している経営環境の中において、当社グループの基本理念に基づいて、持続的な成長を図りステークホルダーのみなさまや社会へ一層の貢献を果たしていくために、新経営体制のもと新しい当社グループの創出を図ってまいります。

株主のみなさまにおかれましては、従来と変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2010年6月

旭化成グループ基本理念

私たち旭化成グループは、
科学と英知による絶えざる革新で、
人びとの「いのち」と「くらし」に貢献します。



代表取締役名誉会長
山口信夫



代表取締役会長
伊藤一郎



代表取締役社長
藤野(建嗣)

中期経営計画「Growth Action - 2010」の進捗状況と今後の経営方針について

戦略の柱として、戦略的な投資を積極的に実行するという方向性は変わらず、エレクトロニクス事業及び医療事業を中心に、高成長追求事業の拡大を加速させるとともに、汎用事業の中で将来的に競争優位を確保できない事業についてはスリム化を図っていくこととしました。

この戦略に基づき、2009年度は、リチウムイオン二次電池用セパレータ「ハイポア™」やポリスルホン膜人工腎臓「APS™」、白血球除去フィルター「セパセル™」といった、今後の成長が期待できる製品の生産能力の積極的な増強を進めました。また、東光株式会社からの半導体事業の譲受けや、米国ネクステージメディカル社との提携、株式会社メテクの株式の譲受けなど、複数の事業買収や事業提携も進めました。

一方で、ポリエステル長繊維の自社生産の停止や、軽量気泡コンクリート(ALC)工場の生産体制の縮小など、今後大きな成長が期待できない事業については見直しを行うとともに、既存の事業でも固定費の削減や在庫の圧縮を進めてまいりました。このような対策の効果もあり、2009年度の業績は減収ながらも増益を確保しました。

「Growth Action - 2010」の進捗状況

旭化成グループでは、現在、2010年度を最終年度とする5カ年の中期経営計画「Growth Action - 2010」を実行しています。2008年下半期の世界的な経済危機に伴う環境変化により、当初目標の達成が困難になったことから、2009年6月に「Growth Action - 2010」の2010年度の計数見直しを含む戦略の見直しを行いました。この結果、これまで進めてきた「グローバル型事業の拡大」と「国内型事業の高度化」を

2009年度の主な設備投資

●2009年度完工

ケミカル
石油残渣物を燃料とするボイラ設備の新設
食塩電解プロセス用イオン交換膜製造設備の能力増強
医薬・医療
排尿障害改善剤ナフトピジル製造設備の新設
白血球除去フィルター「セパセル™」製造設備の能力増強
ポリスルホン膜人工腎臓「APS™」の紡糸工場の能力増強
繊維
ポリウレタン弾性繊維「ロイカ™」製造設備の能力増強
エレクトロニクス
LSI製造設備の能力増強
リチウムイオン二次電池用セパレータ「ハイポア™」製造設備の能力増強
持株会社
「新事業開発棟」の新設

●2009年度末建設中

ケミカル
バイオマス発電設備の新設
医薬・医療
ウイルス除去フィルター「プラノバ™」組立工場の生産能力増強
アフレスシス(血液浄化)関連製品工場の新設
エレクトロニクス
リチウムイオン二次電池用セパレータ「ハイポア™」製造設備の新設、能力増強

2010年度の見通し

2010年度は、「Growth Action - 2010」の最終年度であり、また、次期の中期経営計画を策定する重要な年であると位置付けています。

2010年度の事業を取り巻く環境は、新興国を中心として製品需要は回復基調にあるものの、国内需要の低迷や円高の継続、原燃料価格の高騰などが懸念され、また、石油化学事業においては、中国や中東で大型プラントの稼働が相次ぐなど、依然として予断を許さない状況が続くと予想されます。このような環境の中でも、「Growth Action - 2010」の戦略を着実に実行することにより、競争優位事業のさらなる拡大と各事業における体質改善の加速を進め、増収・増益を達成する見込みです。

なお、事業セグメント別の見通しは、次のとおりです。

ケミカル事業においては、2009年度に引き続き、中国を中心とした堅調な需要を見込んでおり増益となる見通しです。なお、当社と株式会社三菱ケミカルホールディングスとの間で、水島地区のエチレンセンターの一体運営に向けた

検討を進めてきましたが、共同出資会社を設立し2011年4月1日に運営を開始することを、本年5月に合意し、競争力強化の方向付けをしました。住宅事業については、新しいニーズに応える製品の発売などにより、受注及び引渡戸数の増加を見込み、増益となる見通しです。医薬・医療事業については、医薬事業において2008年度に販売を開始した抗血液凝固剤「リコモジュリン™」の販売数量の増加を見込み、医療事業においては、「APS™」やウイルス除去フィルター「プラノバ™」などの海外での販売数量の増加により、増益となる見通しです。繊維事業は、主要製品全般の販売数量の増加を見込むとともに事業再編の効果もあり、黒字転換を達成する見通しです。エレクトロニクス事業は、需要の回復により電子部品系事業、電子材料系事業の各製品において販売数量の

計数見通し

	2007年度 実績	2008年度 実績	2009年度 実績	2010年度 見通し	(参考) 2009年6月見直し時の 2010年度 見通し
売上高	16,968	15,531	14,336	16,770	13,500 ~15,000
営業利益	1,277	350	576	800	600~800

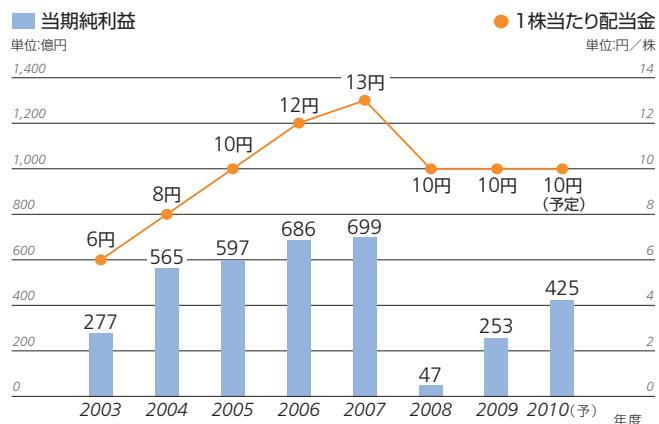
単位:億円

増加により増益となる見通しです。特に「ハイポア™」については、今後も需要動向を見極めながら積極的な能力増強を行うとともに、車載用途での事業拡大に向けた展開を進めていきます。建材事業については、徹底したコストダウンを図ることで増益を確保する見通しです。

配当について

2009年度の1株当たり配当金は、年間10円とさせていただきます。2010年度も、年間10円の配当を予定しています。今後、早期に業績を回復させることで、株主のみなさまへの還元を強化してまいります。

当期純利益と配当金の推移



Growth Action - 2010

今後の経営方針について

今後の世界経済は、金融危機以前の経済の状況にはすぐには戻らないと予想されます。一方で、金融危機以降、世界の経済地図や価値観が変化し、次々と新しい需要が生まれてきています。このような状況の中で、新しい時代の潮流を見極め、これらに合致した経営を進めていくことが、当社グループの向かうべき方向であると認識しています。

当社グループの基本理念は、「科学と英知による絶えざる革新で、人びとの“いのち”と“くらし”に貢献します」であり、“いのち”は「人」、「くらし」は「社会」であると捉えています。地球規模で世の中が大きく変わる中、基本理念に基づき当社グループ

の目指すべき道は、「地球規模で環境と共生する社会」と「一人ひとりが健康で快適な生活を過ごすことができる社会」という2つの社会の創出を事業で実現することです。そのために、当社グループの全ての事業において「地球環境との共生」、「健康で快適な生活」に軸足を置いて当社グループの総合力を発揮していくことを目指します。

今後の当社グループの成長戦略については、当社グループらしさが打ち出せる事業や領域において、2つの方向で考えています。1つ目は、「Growth Action - 2010」の戦略のひとつ



でもある、世界の成長分野において当社グループのプレゼンスを高めることにより、事業をグローバルに拡大させることです。2つ目は、新しい社会構想に、当社グループの様々な事業・技術・ノウハウを融合させ、さらに他社と協業することも視野に置いてシステム型事業にも挑戦していくことです。現在、2011年度から始まる新しい中期経営計画について、これらの考えに沿って策定を進めています。

今後、これらの新しい成長戦略を実行することで、当社グループの拡大・成長を図ってまいります。

事業活動の状況をお知らせします。

旭化成株式会社
旭化成グループ事業会社

旭化成ケミカルズ株式会社		(主な営業品目)
	〒101-8101 東京都千代田区神田神保町一丁目105番地 神保町三井ビルディング Tel. 03-3296-3200 社長 坂本 正樹 資本金 30億円	ケミカル セグメント 石化・モノマー系(無機工業薬品、アクリロニトリル、スチレンモノマー、アジピン酸、MMAモノマー・樹脂など)、ポリマー系(スチレン系樹脂「スタイラック™」、ポリアセタール樹脂「テナック™」、変性PPE樹脂「ザイロン™」、ナイロン66樹脂「レオナ™」、ポリエチレン「サンテック™」、合成ゴムなど)、高付加価値系(塗料原料、医薬・食品用添加剤「セオラス™」、火薬類、高分子中空糸膜「マイクロザ™」、イオン交換膜法電解装置、「サランラップ™」、「ジップロック™」、各種フィルム・シート、発泡体など)
	〒160-8345 東京都新宿区西新宿一丁目24番1号 エステック情報ビル Tel. 03-3344-7111 社長 平居 正仁 資本金 32億5千万円	住宅 セグメント 「ヘーベルハウス™」、「ヘーベルメゾン™」、マンション事業、都市開発事業、リフォーム事業、不動産事業、金融事業など
	〒101-8101 東京都千代田区神田神保町一丁目105番地 神保町三井ビルディング Tel. 03-3296-3600 社長 浅野 敏雄 資本金 30億円	医薬・医療 セグメント 医薬品(「エルシトニン™」、「フリバス™」、「トレドミン™」、「リコモジュリン™」、「ファムビル™」など)、診断薬、診断薬酵素など
	旭化成クラレメディカル株式会社 旭化成メディカル株式会社 〒101-8101 東京都千代田区神田神保町一丁目105番地 神保町三井ビルディング Tel. 03-3296-3750 社長 吉田 安幸 資本金 旭化成クラレメディカル 8億円 旭化成メディカル 2億円	医薬・医療 セグメント 旭化成クラレメディカル株式会社 ポリスルホン膜人工腎臓「APS™」、吸着型血液浄化器「セルソーバ™」など 旭化成メディカル株式会社 ウイルス除去フィルター「プラノバ™」、白血球除去フィルター「セパセル™」など
	旭化成せんい株式会社 〒530-8205 大阪府大阪市北区中之島三丁目3番23号 中之島タイビル Tel. 06-7636-3500 社長 高井 秀文 資本金 30億円	繊維 セグメント ポリウレタン弾性繊維「ロイカ™」、再生セルロース繊維「ベンベルグ™」、スパンボンド「エルタス™」・人工皮革「ラムース™」などの不織布、ナイロン66 繊維「レオナ™」など
	旭化成エレクトロニクス株式会社 〒101-8101 東京都千代田区神田神保町一丁目105番地 神保町三井ビルディング Tel. 03-3296-3911 社長 小堀 秀毅 資本金 30億円	エレクトロニクス セグメント ミックスドシングナルLSI、ホール素子、ホールIC、電子コンパス、ファイン・パターン・コイルなど
	旭化成イーマテリアルズ株式会社 〒101-8101 東京都千代田区神田神保町一丁目105番地 神保町三井ビルディング Tel. 03-3296-3939 社長 鴻巣 誠 資本金 30億円	エレクトロニクス セグメント リチウムイオン二次電池用セパレータ「ハイボア™」、フォトマスク防塵保護膜ベリクル、プラスチック光ファイバ、拡散板、フレキシ印刷用感光性樹脂製版システム「APR™」、エポキシ樹脂、感光性ポリイミド樹脂「バイメル™」、感光性ドライフィルムレジスト「サンフォート™」、プリント基板用ガラスクロスなど
	旭化成建材株式会社 〒101-8101 東京都千代田区神田神保町一丁目105番地 神保町三井ビルディング Tel. 03-3296-3500 社長 小林 宏史 資本金 30億円	建材 セグメント 軽量気泡コンクリート(ALC) (「ヘーベル™」など)、パイル、高性能断熱材「ネオマ™フォーム」など

当社グループの主要事業別の営業状況について、6つの事業セグメントに「サービス・エンジニアリング等」を加えた7つのセグメントに区分してご説明します。なお、当期より、一部のセグメント名称を下記のとおり変更しています。

変更前	変更後
「ケミカルズ」セグメント	「ケミカル」セグメント
「ホームズ」セグメント	「住宅」セグメント
「ファーマ」セグメント	「医薬・医療」セグメント
「せんい」セグメント	「繊維」セグメント

2009年4月1日付けで行われた旭化成、旭化成ケミカルズ及び旭化成エレクトロニクスのエレクトロケミカル関連事業の旭化成イーマテリアルズへの移管に伴い、本事業の前期の業績を「ケミカル」セグメント及び「消去又は全社」から「エレクトロニクス」セグメントに組替えて概況の説明を行っています。

また、2009年4月1日付けで行われた旭化成ケミカルズの「レオナ™」繊維事業の旭化成せんいへの移管に伴い、本事業の前期の業績を「ケミカル」セグメントから「繊維」セグメントに組替えて概況の説明を行っています。

CHEMICALS

43.4%

ケミカル (セグメント)

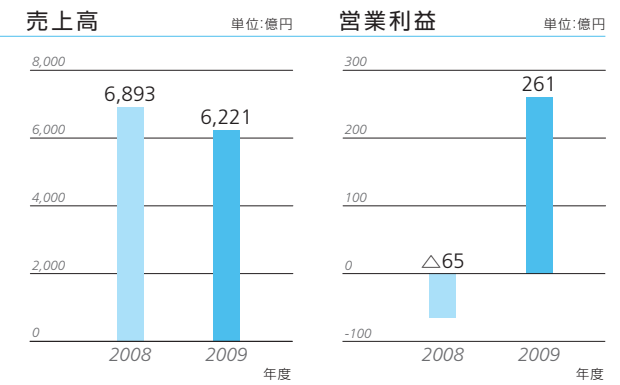
(売上構成比)

売上高は6,221億円で前期比672億円(9.8%)の減収となったものの、営業利益は261億円で前期比326億円の増益となりました。

石化・モノマー系事業は、上半期は製品価格が低水準に推移したものの、下半期の中国を中心としたアジア市場での需要の回復に伴って、アクリロニトリルやアジピン酸などの海外市況が高水準で推移したことに加え、在庫評価損の減少の影響などもあり、業績は前期を上回りました。

ポリマー系事業は、原燃料価格低下に伴う製品価格下落の影響を受けたものの、下半期以降、自動車や家電向けの需要が回復し、製品の販売数量が増加したことに加え、在庫評価損の減少の影響などから、業績は前期並となりました。

高付加価値系事業は、水処理事業の業績の回復が遅れたことやイオン交換膜事業で円高の影響を受けましたが、「サランラップ™」などの消費材の販売やコーティング事業が好調に推移したことに加え、添加剤事業も堅調に推移したことなどから、業績は前期を上回りました。



事業活動の状況をお知らせします。

HOMES

住宅<セグメント>

売上高は3,897億円で前期比202億円（4.9%）の減収となったものの、営業利益は253億円で前期比35億円（15.9%）の増益となりました。

建築請負・分譲事業は、戸建住宅「ヘーベルハウス™」の引渡戸数が大幅に減少したものの、大幅なコストダウンなど経営の効率化に努めたことから、業績は前期を上回りました。なお、当期の建築請負事業の受注実績については、下半期から受注が回復したことから、前期比158億円増加し3,069億円となりました。

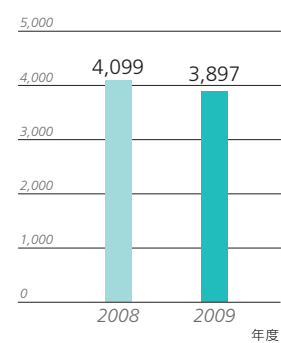
住宅周辺事業は、リフォーム事業や不動産事業は堅調に推移したものの、金融事業が苦戦したことから、業績は前期を下回りました。

27.2%

(売上構成比)

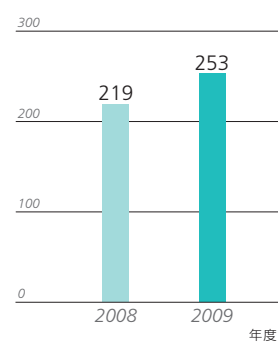
売上高

単位:億円



営業利益

単位:億円



HEALTH CARE

医薬・医療<セグメント>

売上高は1,132億円で前期比64億円（5.4%）の減収となり、営業利益は40億円で前期比80億円（66.8%）の減益となりました。

医薬事業は、排尿障害改善剤「フリバス™」やカルシトニン製剤「エルシトニン™」などの販売数量が増加し、売上増に寄与したものの、ライセンス収入が減少したことから、業績は前期を下回りました。

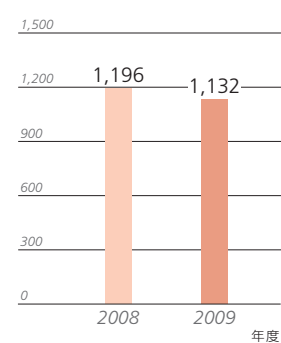
医療事業は、ポリスルホン膜人工腎臓「APS™」や白血球除去フィルター「セパセル™」などの販売数量が輸出を中心に増加したものの、各製品が円高の影響を強く受けたことに加え、減価償却費の増加などにより、業績は前期を下回りました。

7.9%

(売上構成比)

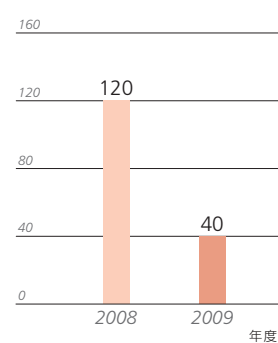
売上高

単位:億円



営業利益

単位:億円



FIBERS

繊維<セグメント>

売上高は1,012億円で前期比152億円（13.1%）の減収となり、営業損失は28億円で前期比13億円の悪化となりました。

ポリウレタン弾性繊維「ロイカ™」は、海外での販売数量が増加したものの、製品価格下落や円高の影響を強く受け、業績は前期を下回りました。

再生セルロース繊維「ベンベルグ™」は、海外向けが堅調に推移したものの、円高の影響を受けたことなどから、業績は前期を下回りました。

不織布事業は、スパンボンドの販売数量が減少したものの、人工皮革「ラムース™」のカーシート分野での販売数量の増加やコストダウンに努めたことなどから、業績は前期を上回りました。

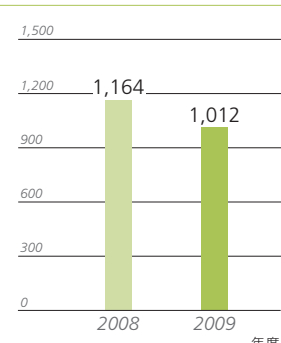
ナイロン66繊維「レオナ™」は、販売数量が減少したものの、原燃料価格の下落やコストダウンに努めたことから、業績は前期を上回りました。

7.0%

(売上構成比)

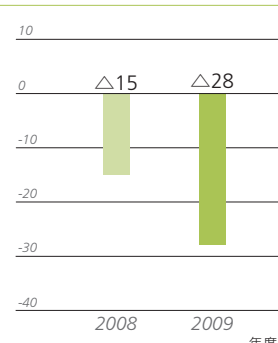
売上高

単位:億円



営業利益

単位:億円



ELECTRONICS

エレクトロニクス<セグメント>

売上高は1,427億円で前期比130億円（10.1%）の増収となったものの、営業利益は72億円で前期比微減益となりました。

電子部品系事業は、円高の影響を強く受けたものの、LSIの新規用途で販売数量が大幅に増加し、業績は前期を上回りました。

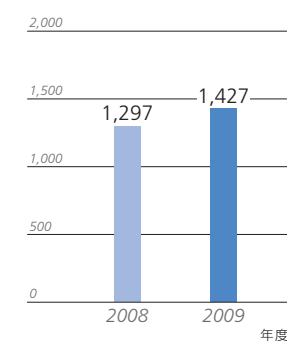
電子材料系事業は、リチウムイオン二次電池用セパレータ「ハイポア™」を中心に販売数量が回復したものの、全般的な製品価格下落の影響などを受け、業績は前期を下回りました。

10.0%

(売上構成比)

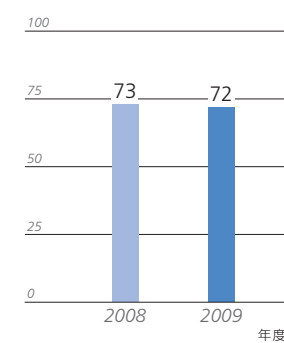
売上高

単位:億円



営業利益

単位:億円



CONSTRUCTION MATERIALS

建材<セグメント>

売上高は470億円で前期比139億円（22.8%）の減収となり、営業利益は12億円で前期比5億円（28.6%）の減益となりました。

建築・住宅用資材を扱う建事業は、建築着工数の減少により、軽量気泡コンクリート（ALC）「ヘーベル™」や露出型弾性固定柱脚工法「ベースバック™」の販売数量が減少したことなどから、業績は前期をわずかに下回りました。

基礎事業は、小口径・鋼管杭工法「EAZET™」や、低排土・高支持力コンクリートパイル工法「DYNAWING™」などの基礎杭工事の請負高が減少したことから、業績は前期を下回りました。

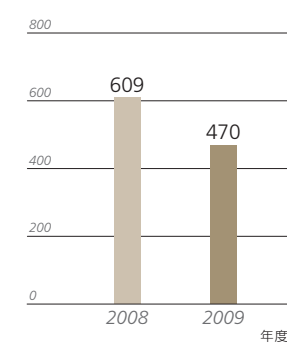
断熱材事業は、住宅着工数の減少の影響を受けたもののコストダウンに努めたことにより、業績は前期を上回りました。

3.3%

(売上構成比)

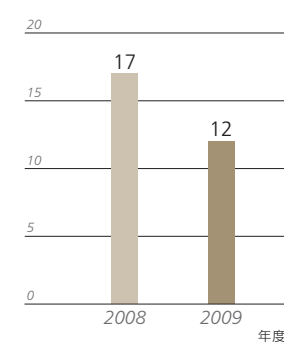
売上高

単位:億円



営業利益

単位:億円



SERVICE & ENGINEERING

サービス・エンジニアリング等<セグメント>

売上高は176億円で前期比97億円（35.4%）の減収となり、営業利益は18億円で前期比38億円（67.6%）の減益となりました。

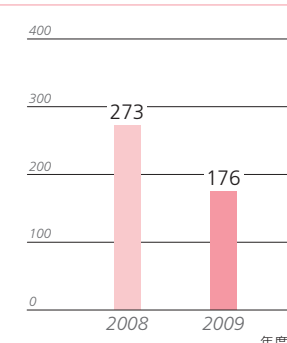
エンジニアリング事業は、設備投資の抑制による受注減少により、業績は前期を下回りました。

1.2%

(売上構成比)

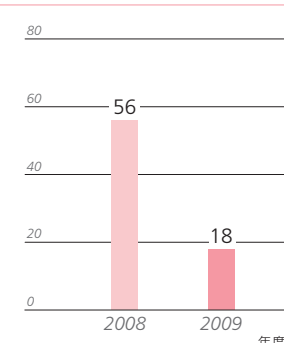
売上高

単位:億円



営業利益

単位:億円



TOPICS

●旭化成 ●ケミカル ●住宅 ●医薬・医療 ●繊維 ●エレクトロニクス ●建材

- 鈴鹿市との災害時飲料水等供給の協定締結
- 「スマートヘーベルハウス™」新発売
- ウイルス除去フィルター「プラノバ™」新紡糸工場竣工
- 白血球除去フィルター「セパセル™」新工場竣工

●ネクステージメディカル社との事業提携契約の締結

旭化成クラレメディカルは、透析事業領域に関し、米国ネクステージメディカル社に人工腎臓用中空糸を供給し、また、ネクステージメディカル社ドイツ工場に同社ブランドの人工腎臓の組立を委託する提携契約を締結しました。



- 導電性を飛躍的に向上させるピニルスルホン酸ポリマーの開発

- 「ヘーベルハウス™ 新大地プレミアム」新発売

●「エヴァハート™」の米国での治験開始

旭化成は、2009年4月に株式会社ミス・サンメディカルHDと補助人工心臓「エヴァハート™」の海外展開協力に関して基本合意し、9月には米国における重症心不全患者の心臓移植へのつなぎ使用を適応とした治験開始の承認を受けました。



- 肥料事業統合の合併契約締結
- 物質・材料研究機構と旭化成クラレメディカルが共同開発に着手

- 分譲マンション「アトラス国領」、「アトラス野毛山」が2009年度グッドデザイン賞を受賞
- 韓国での医療機器販売会社営業開始

●「ヘーベルハウス™ フレックス G3」新発売

旭化成ホームズは、都市型中層住宅向けの新商品「ヘーベルハウス™ フレックス G3」を発売しました。システムラーメン構造を採用することにより、耐力壁による間取りの制約を受けない大空間を実現できます。



- 「エコプロダクツ2009」出展
- 北米でのバイオプロセス事業の統合

●新型浄水用浸漬式膜の販売開始

旭化成ケミカルズは、アジアをはじめとした原水濁度が高い地域での拡販や砂ろ過逆洗排水の回収などの新しい用途を開拓すべく、さらに高透水性し経済性を高めた、高透水性浸漬式膜モジュールを開発し、販売を開始しました。



2009

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

2010

1月

2月

3月

- 全国発明表彰にて「ノンフロン型高性能フェノールフォームの発明」が発明賞を受賞
- 旭化成建材白老工場の閉鎖及び旭化成ファーマのコエンザイムQ10事業からの撤退を決定

- アジア最大規模のフィリピン膜式水道浄水設備に「マイクロザ™」採用決定
- 高耐久・高性能光触媒塗装「デュラ光™」開発
- バイオ医薬品向け合成高分子新膜「Planova BioEX™」新発売

●「ハイボア™」設備能力の増強

旭化成イーマテリアルズは、リチウムイオン二次電池用セパレータ「ハイボア™」の設備能力の大幅な増強を進めており、2009年7月及び9月に滋賀県守山市の工場の増強を完了するとともに、2010年4月には、建設を進めていた宮崎県日向市の新工場の商業運転を開始しました。



- 研究開発拠点「新事業開発棟」（静岡県富士市）の運用開始
- 植込み型心電用データレコーダ「Reveal DX™」販売開始
- 医療機器開発・製造メーカーの株式会社メテクの株式取得及び完全子会社化を決定

- 子育て世代を支援する住生活を提案するソフト商品「+NEST™」新発売
- 第5回「旭化成・中国ファッションデザイナークリエイティブ大賞」開催

●木造ALC住宅用火災保険の取扱い開始

旭化成建材は、「ヘーベルパワーボード™」などを採用した木造ALC住宅用火災保険商品「トリアングルA」をAIU保険会社と共同開発し、損害保険代理店業務を開始しました。



●「dECOb™」の販売開始

旭化成せんいは、特殊不織布「スマッシュ™」を使用することで省エネルギーと長寿命を実現した、環境対応型新フィルターバッグ「dECOb（デコブ）™」を、工業用フィルター関連製品を扱う麻益株式会社と共同開発し、販売を開始しました。



- 中国華南（広州）での機能樹脂販売会社営業開始
- 第6回「旭化成・中国ファッションデザイナークリエイティブ大賞」開催

当期の決算〈連結〉をご報告します。

旭化成グループ

POINT

① 流動資産

前第4四半期に比べ当第4四半期の売上高が増えたことなどから受取手形及び売掛金が301億円増加しましたが、たな卸資産（商品及び製品、仕掛品、原材料及び貯蔵品）が225億円、その他が316億円減少したことなどから、前期比218億円（3.2%）減少し、6,604億円となりました。

② 固定資産

繰延税金資産が135億円減少しましたが、新規連結会社が増加したことなどにより有形固定資産が62億円、保有株式の時価が上昇したことなどにより投資有価証券が180億円増加したことなどから、前期比114億円（1.6%）増加し、7,085億円となりました。

③ 流動負債

コマーシャル・ペーパーが360億円、1年内償還予定の社債が200億円減少したことなどから、前期比531億円（10.9%）減少し、4,348億円となりました。

④ 純資産

配当の支払112億円による減少があったものの、当期純利益を253億円計上したことやその他有価証券評価差額金134億円の増加、新規連結会社の増加などに伴う少数株主持分の増加38億円などがあったことなどから、当期末の純資産は前期末の6,114億円から333億円（5.5%）増加し、6,447億円となりました。その結果、1株当たり純資産は前期比21円14銭増加し452円91銭となり、自己資本比率は前期末の43.8%から46.3%となりました。D/Eレシオは、前期末から0.10ポイント改善し、0.42となりました。

連結貸借対照表(要旨)

科目	前期 2009年3月31日現在	当期 2010年3月31日現在
資産の部		
① 流動資産	6,822	6,604
② 固定資産	6,971	7,085
有形固定資産	4,413	4,475
無形固定資産	374	347
投資その他の資産	2,185	2,263
資産合計	13,793	13,689
負債の部		
③ 流動負債	4,879	4,348
固定負債	2,801	2,894
負債合計	7,680	7,242
純資産の部		
株主資本	5,991	6,129
資本金	1,034	1,034
資本剰余金	794	794
利益剰余金	4,183	4,321
自己株式	△ 19	△ 20
評価・換算差額等	47	205
少数株主持分	75	113
④ 純資産合計	6,114	6,447
負債純資産合計	13,793	13,689

連結損益計算書(要旨)

科目	前期 2008年4月1日～ 2009年3月31日	当期 2009年4月1日～ 2010年3月31日
売上高	15,531	14,336
売上原価	12,378	11,007
売上総利益	3,153	3,329
販売費及び一般管理費	2,803	2,753
営業利益	350	576
営業外収益	85	79
営業外費用	110	91
経常利益	325	564
特別利益	5	69
特別損失	140	172
税金等調整前当期純利益	190	461
法人税、住民税及び事業税	85	171
法人税等調整額	52	34
少数株主損益	損 6	損 3
当期純利益	47	253

連結株主資本等変動計算書(要旨) (2009年4月1日～2010年3月31日)

	株 主 資 本					評価・換算 差 額 等	少数株主 持 分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
2009年3月31日残高	1,034	794	4,183	△19	5,991	47	75	6,114
当期間中の変動額								
剰余金の配当			△112		△112			△112
当期純利益			253		253			253
自己株式の取得				△1	△1			△1
自己株式の処分		△0		0	0			0
連結範囲の変動			△0		△0			△0
持分法の適用範囲の変動			△3		△3			△3
株主資本以外の項目の当期間中の変動額(純額)						157	38	196
当期間中の変動額合計	—	△0	138	△1	137	157	38	333
2010年3月31日残高	1,034	794	4,321	△20	6,129	205	113	6,447

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

科目	前期 2008年4月1日～ 2009年3月31日	当期 2009年4月1日～ 2010年3月31日
営業活動による キャッシュ・フロー	688	1,693
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 1,357	△ 1,002
財務活動による キャッシュ・フロー	873	△ 751
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△ 54	6
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	151	△ 53
現金及び現金同等物の 期首残高	830	981
連結の範囲の変更に伴う現金及び 現金同等物の増減額(△は減少)	—	4
現金及び現金同等物の 期末残高	981	931

当期の決算をご報告します。

旭化成株式会社

貸借対照表(要旨)

科目	前期 2009年3月31日現在	当期 2010年3月31日現在
資産の部		
流動資産	3,321	2,121
固定資産	4,437	5,066
有形固定資産	701	753
無形固定資産	39	39
投資その他の資産	3,697	4,273
資産合計	7,758	7,186
負債の部		
流動負債	2,322	1,563
固定負債	1,584	1,742
負債合計	3,906	3,305
純資産の部		
株主資本	3,669	3,601
資本金	1,034	1,034
資本剰余金	794	794
利益剰余金	1,861	1,793
自己株式	△19	△20
評価・換算差額等	183	281
純資産合計	3,852	3,882
負債純資産合計	7,758	7,186

損益計算書(要旨)

科目	前期 2008年4月1日～ 2009年3月31日	当期 2009年4月1日～ 2010年3月31日
営業収益	315	170
一般管理費	147	138
営業利益	167	32
営業外収益	53	52
営業外費用	38	38
経常利益	182	46
特別利益	12	6
特別損失	44	7
税引前当期純利益	149	46
法人税、住民税及び事業税	△27	△30
法人税等調整額	4	11
当期純利益	172	65

株主資本等変動計算書(要旨) (2009年4月1日～2010年3月31日)

	株主資本					評価・換算 差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
2009年3月31日残高	1,034	794	1,861	△19	3,669	183	3,852
当期中の変動額							
剰余金の配当			△112		△112		△112
当期純利益			65		65		65
分割型の会社分割による減少			△21		△21		△21
自己株式の取得				△1	△1		△1
自己株式の処分		△0		0	0		0
株主資本以外の項目の当期中の変動額(純額)						98	98
当期中の変動額合計	—	△0	△67	△1	△68	98	30
2010年3月31日残高	1,034	794	1,793	△20	3,601	281	3,882

株式の状況をご報告します。

(2010年3月31日現在)

株式の状況

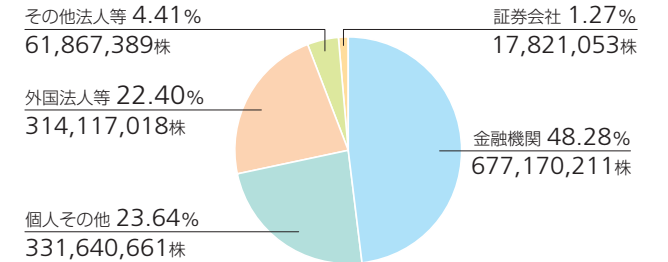
発行可能株式総数	4,000,000,000 株
発行済株式の総数	1,402,616,332 株
株主数	129,231 名

大株主(上位10名)

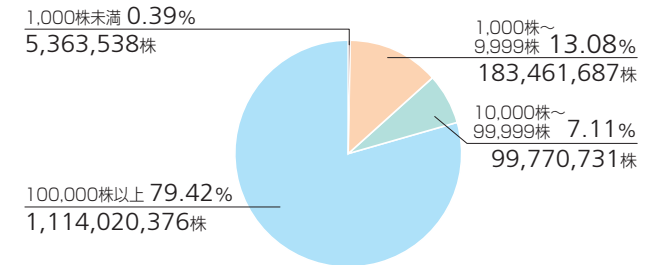
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	94,860	6.78
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	78,988	5.65
日本生命保険相互会社	73,000	5.22
旭化成グループ従業員持株会	43,470	3.11
株式会社三井住友銀行	35,404	2.53
東京海上日動火災保険株式会社	31,100	2.22
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	25,277	1.81
明治安田生命保険相互会社	20,878	1.49
株式会社みずほコーポレート銀行	20,269	1.45
住友生命保険相互会社	19,517	1.40

(注)持株比率については、自己株式(4,228,468株)を除いて算出しています。

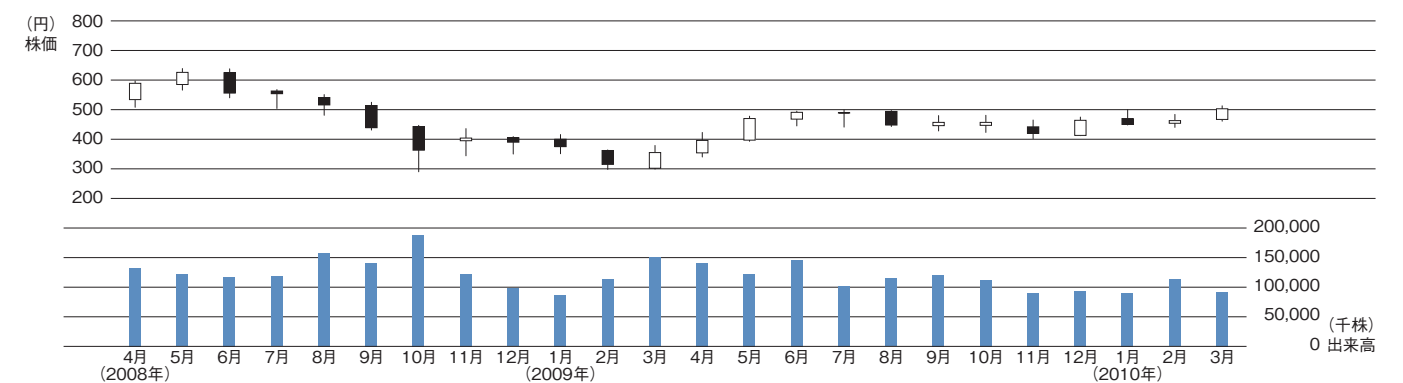
所有者別株式分布状況



所有株数別株式分布状況



株価の推移(月足)



会社概要

会社概要 (2010年3月31日現在)

商号	旭化成株式会社 (Asahi Kasei Corporation)
設立年月日	1931年5月21日
資本金	103,388,521,767円
主要事業	繊維、化学、住宅、建材、エレクトロニクス、 医薬・医療等の事業を行う会社の株式保有及びその事業活動の管理等
東京本社	〒101-8101 東京都千代田区神田神保町一丁目105番地 神保町三井ビルディング 電話(03) 3296-3000
大阪本社(本店)	〒530-8205 大阪市北区中之島三丁目3番23号 中之島ダイビル 電話(06) 7636-3111
連結対象子会社	98社
持分法適用会社	49社
URL	http://www.asahi-kasei.co.jp/

グループの概要 (2010年3月31日現在)

事業会社

旭化成ケミカルズ株式会社
旭化成ホームズ株式会社
旭化成ファーマ株式会社
旭化成クラレメディカル株式会社
旭化成メディカル株式会社
旭化成せんい株式会社
旭化成エレクトロニクス株式会社
旭化成イーマテリアルズ株式会社
旭化成建材株式会社

主な工場地区

延岡地区、富士地区、守山地区、
大仁地区、水島地区、川崎地区など

主な営業拠点

東京、大阪、福岡、名古屋、札幌、
北陸(福井)、広島、仙台、
北京事務所、
旭化成アメリカ(ニューヨーク)など

主な研究所

- 旭化成 旭化成クラレメディカル 医療製品開発本部
- 旭化成せんい 研究開発センター
- 旭化成ケミカルズ 研究開発センター
モノマー・触媒研究所
化学・プロセス研究所
樹脂総合研究所
- 旭化成エレクトロニクス 研究開発センター
設計開発センター
プロセス技術開発センター
- 旭化成イーマテリアルズ 新事業開発総部
- 旭化成ホームズ 住宅総合技術研究所
くらしノベーショナル研究所
- 旭化成建材 建材研究所
- 旭化成ファーマ 医薬研究センター

役員 (2010年6月29日現在)

代表取締役名誉会長	山口 信夫
代表取締役会長	伊藤 一郎
代表取締役社長 社長執行役員	藤原 健嗣
取締役 常務執行役員	稲田 勉
取締役 常務執行役員	藤原 孝二
取締役 常務執行役員	水野 雄氏
取締役 常務執行役員	水永 正憲
社外取締役	瀬戸 雄三
社外取締役	児玉 幸治
社外取締役	池田 守男
常勤監査役	土屋 友二
常勤監査役	中前 憲二
社外監査役	手塚 一男
社外監査役	青木 雄二
常務執行役員	亀井 啓次
常務執行役員	山添 勝彦
上席執行役員	松居 龍
上席執行役員	角南 俊克
上席執行役員	柴田 豊
上席執行役員	根井伸一郎
執行役員	鴻巣 誠
執行役員	坂本 正樹
執行役員	吉田 安幸
執行役員	平居 正仁
執行役員	米田 晴幸

CLOSE-UP ● サランラップ® 発売50周年

50th anniversary
品質を大切に50年。

サランラップ® 50年の歩み



2010年、サランラップ® は発売50周年を迎えます。この間サランラップ® はキッチンの良きパートナーとして、お客様とともに成長を続けてまいりました。冷凍・冷蔵庫の登場、電子レンジの普及など、日本のキッチンはこの50年の間に大きく進化を遂げ、食文化、食生活も多様化してきましたが、サランラップ® は愛され続け、ラップのトップブランドとして順調に歩み続けております。

サランラップ® はこれからもお客様の信頼を高めるための努力を続けてまいります。

1960年



食品の鮮度をつつむサランラップ®

発売当初、日本の冷蔵庫普及率は約10%。まず、使い方の説明から始まりました。

1993年



“グッドイエロー”のサランラップ® 登場

おなじみの黄色いパッケージデザインに一新。切れやすさなど、使いやすさも進化しました。

1966年



味も香りもそっくりつつむサランラップ®

高度成長に伴い、冷蔵庫が猛スピードで一般家庭に普及。「冷蔵庫の中でも水分を逃がさない、においが移らない」ことなどをアピールしました。

2004年



カチッと閉じてカチッと切れるサランラップ®

ユニバーサルデザインの考え方を導入しました。

1978年



電子レンジにはサランラップ®

電子レンジの普及とともに、耐熱性にも注目が。冷蔵庫の中からキッチン全体へと活躍の場が広がりました。

2008年



パッケージとフィルムのリニューアル実施

フィルムの改良とあわせて、つまみやすく巻き戻りにくい波形フラップを装着。さわやかなデザインに一新しました。

「ピッとピツタリ、明日もおいしく。」

サランラップ® は、50年間フィルム品質、使いやすさにこだわり続けてきました。丈夫で密着性に優れていること。そして、食べ物のおいしさが持続するということ。それは、未来においしさを運んでくれるということ。新キャッチコピー「ピッとピツタリ、明日もおいしく。」には、誕生以来、日本の食卓が豊かになることを願い続けてきたサランラップ® の「品質感」がこめられています。

■ 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月下旬開催
1単元の株式の数	1,000株
基準日	定時株主総会 毎年3月31日
	期末配当金 毎年3月31日
	中間配当金 毎年9月30日
	そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
株主名簿管理人	住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	住友信託銀行株式会社証券代行部 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
公告の方法	電子公告 http://www.asahi-kasei.co.jp/asahi/jp/koukoku/index.html
上場証券取引所	東京・大阪・名古屋・福岡・札幌各証券取引所
証券コード	3407

■ 株式に関するお手続きについて

各お手続きのお問い合わせ先は以下のとおりとなっております。

お手続きの内容	証券会社の口座をご利用の株式についてのお問い合わせ先	特別口座※1)に記録された株式についてのお問い合わせ先
<ul style="list-style-type: none">● 住所、姓名などの変更● 単元未満株式の買取、買増請求※2)● 配当金の受領方法の変更※3)	お取引証券会社	特別口座の口座管理機関 (住友信託銀行株式会社(証券代行部))
● 特別口座から証券口座への振替請求		
<ul style="list-style-type: none">● 支払期間経過後の配当金支払※4)● その他のお問い合わせ	株主名簿管理人 (住友信託銀行株式会社(証券代行部))	

【住友信託銀行株式会社 証券代行部】

郵便物の送付先 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10

電話照会先 ☎0120-176-417(平日午前9時から午後5時)

インターネットホームページURL <http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>

※1 株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていない株主様には、法令に従い株主名簿管理人である住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開いたしております。

※2 単元未満株式(1,000株未満の株式)をご所有の場合、その株式の買取の請求、または単元株式数に不足する数の株式の買増の請求を行うことができます。

※3 配当金のお受け取り方法には、下記の4つがございます。(詳細は上記お問い合わせ先にご確認ください。)

- ・配当金領収証方式(ゆうちょ銀行・郵便局の窓口で現金を受領)
- ・個別銘柄指定方式(株式の銘柄ごとに、指定された各金融機関口座に振込)
- ・登録配当金受領口座方式(全保有銘柄の配当金を、指定された同一の金融機関口座に振込)
- ・株式数比例配分方式(お取引証券口座への振込。証券口座のみご利用の株主様に限りです。)

※4 配当金は、支払開始の日から満3年(除斥期間)を経過しますと、当社定款の定めにより、お支払いできなくなりますので、お早めにお受け取りください。

旭化成株式会社

〒530-8205 大阪市北区中之島三丁目3番23号 中之島ダイビル

<http://www.asahi-kasei.co.jp/>

